

令和7年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	商工観光課	担当課長名	足立 寛聡
-----	-------	-------	-------

1. 事業概要				部・局名	経済部	課・所属名	商工観光課
施策体系	大 区 分	活気みなぎるまちづくり			事業概要	観光誘客の促進及び観光消費額の拡大を目的に、市内観光での体験型観光コンテンツの造成を行い、自らが財源を確保できる仕組みづくりを行うことで、持続可能な観光の造成を行います 令和6年度は、新規事業者を加え、体験型観光コンテンツの造成、体験型コンテンツのPR動画制作、リーフレット作成、情報発信を行いました。 特定財源：デジタル田園都市国家構想交付金 1/2	
	中 区 分	観光					
	小 区 分	観光資源の魅力向上					
実施事業	事 業 名	観光コンテンツ造成事業			翌年度以降3年間の内容		
	事業目的	市内で観光業を営む事業者または、これから観光客の受け入れに取り組む事業者を対象に、民間事業者に委託し観光コンテンツ造成およびPRを行い、市内における観光消費額の増加を図ります。					
	目標指標	OTAを通した体験者数					
	事業期間	R4～R6					
	総括表掲載	掲載なし					
	二次評価対象	○					
予算科目	会 計		款	項	目	事業名	
	001 一般会計		007 商工費	001 商工費	004 観光費	07010430	観光コンテンツ造成事業

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位：人）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起債	基金	その他	一般財源	計			
6	7,500					7,778	15,278	5	1,488.0	1,000.0
7								6	1,557.0	1,500.0
8								7	0.0	0.0
9								8	0.0	0.0
10								9	0.0	0.0
11								10	0.0	0.0
12								11	0.0	0.0
13								12	0.0	0.0
14								13	0.0	0.0
15								14	0.0	0.0
計	7,500					7,778	15,278	15	0.0	0.0
担当課評価	実施状況	新規事業者を加えた計20事業者による体験型コンテンツを造成しました。また、新たにPR動画、リーフレット、MAP、ポスターを制作し、市内外へのPR活動を行いました。								
	問題課題	事業者同士の繋がりが薄く、面での観光誘客ができていません。また、OTAを通した体験者数は増加したものの、割引クーポン対象期間以降の継続的な誘客ができていません。								
	具体的改善内容	令和7年度からは瑞浪市観光協会が事業を引き継ぎ、事業者間の繋がりを強めながら、本事業を拡大していきます。また、観光協会による出展イベントでのPRを通して継続的な誘客を図ります。								
査定							次年度方向性	完了		

3. 達成度評価

達成度	A	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

(1) 項目別評価

達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価	
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価	

【二次評価基準凡例表】

(1) 項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強く求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2) 個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

二次評価委員名	
---------	--

(2) 個人総合評価

評価	
意見・コメント	

(3) 委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

令和7年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	商工観光課	担当課長名	足立 寛聡
-----	-------	-------	-------

1. 事業概要				部・局名	経済部	課・所属名	商工観光課
施策体系	大 区 分	活気みなぎるまちづくり			事業概要	リニア開通に向けて、東美濃地域と広域観光連携を図り、パンフレットの作成、情報誌への掲載、イベント開催等、観光PR事業を実施します。事業主体となる東美濃歴史街道協議会に対して、県と東美濃地域の6市1町が経費負担を行います。	
	中 区 分	観光					
	小 区 分	地域資源を活かした観光連携					
実施事業	事 業 名	東濃圏広域観光PR事業			翌年度以降3年間の内容	特定財源：デジタル田園都市国家構想交付金 1/2	
	事業目的	東美濃地域連携による観光PR、リニア新幹線開通後に向けて共通の観光資源の情報発信					
	目標指標	年間観光入込客数					
	事業期間	H22～					
	総括表掲載	掲載あり					
	二次評価対象	○					
	予算科目	会 計	款	項			
	001 一般会計	007 商工費	001 商工費	004 観光費	07010408	東濃圏広域観光PR事業	

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位：人）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起債	基金	その他	一般財源	計			
6	800					800	1,600	5	1,185,239.0	1,200,000.0
7								6	1,210,521.0	1,200,000.0
8								7	0.0	1,230,000.0
9								8	0.0	1,270,000.0
10								9	0.0	1,300,000.0
11								10	0.0	1,335,000.0
12								11	0.0	1,370,000.0
13								12	0.0	1,405,000.0
14								13	0.0	1,440,000.0
15								14	0.0	1,475,000.0
計	800					800	1,600	15	0.0	1,500,000.0
担当課評価	実施状況	東濃5市と可児市、御嵩町で構成する「東美濃歴史街道協議会」で連携し、首都圏及び中京圏での東美濃地域特産品の販促やメディアとの交流会を通して東美濃地域のPRを行いました。また、共通の資源である地酒や五平餅のPRイベントを開催しました。								
	問題課題	「東美濃」という地域の認知度はまだ低く、継続的な情報発信及び効果的な施策を行っていく必要があります。また、事業の効果検証が不十分なため、課題と成果を明確化する必要があります。								
	具体的改善内容	単にイベントや販促事業で東美濃をPRするだけでなく、東美濃地域の課題と成果目標を設定し、効果測定を行いながら事業内容を改善していきます。また、リニア開業を見据え、中京圏並びに首都圏へのPRを推進していきます。								
査定							次年度方向性	現状で継続		

3. 達成度評価

達成度	A	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

(1) 項目別評価

達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価	
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価	

【二次評価基準凡例表】

(1) 項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強く求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2) 個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

二次評価委員名	
---------	--

(2) 個人総合評価

評価		
意見・コメント		

(3) 委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

令和7年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	商工観光課	担当課長名	足立 寛聡
-----	-------	-------	-------

1. 事業概要			部・局名	経済部	課・所属名	商工観光課
施策体系	大 区 分	持続可能なまちづくり		事業概要	赤字額が増大している東鉄バス明智線を維持し、利用者の足を確保するため、東濃鉄道株式会社へ補助を行います。また、利便性の向上と利用促進を図るため、上限運賃制度を導入、減収分の補助も検討します。	
	中 区 分	公共交通				
	小 区 分	総合的な公共交通体系の構築				
実施事業	事業名	広域バス路線運行維持補助事業		翌年度以降3年間の内容	令和8～10年度 上限運賃制度導入による減収分も含め、明智線の運行に係る赤字額を補填するために補助金を交付します。	
	事業目的	陶地区の交通手段の確保・維持				
	目標指標	明智路線年間利用者数				
	事業期間	R5～R16				
	総括表掲載	掲載あり				
	二次評価対象	○				
予算科目	会計	款	項	目	事業名	
	001 一般会計	007 商工費	001 商工費	001 商工総務費	07010113	広域バス路線運行維持補助事業

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位：人）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起 債	基 金	その他	一般財源	計			
6						3,192	3,192	5	46,554.0	70,000.0
7								6	59,148.0	70,000.0
8								7	0.0	70,000.0
9								8	0.0	70,000.0
10								9	0.0	70,000.0
11								10	0.0	70,000.0
12								11	0.0	70,000.0
13								12	0.0	70,000.0
14								13	0.0	70,000.0
15								14	0.0	70,000.0
計						3,192	3,192	15	0.0	70,000.0
担当課評価	実施状況	恵那市との負担割合に応じて東濃鉄道株式会社へ補助金を交付しました。また、上限運賃制度の導入について関係者との協議を進めました。								
	問題課題	コロナ禍以降、利用者数が減少し、路線の維持が厳しくなっています。また、運転手不足も課題となり、現状の便数を維持することも困難な状況です。								
	具体的改善内容	陶デマンド交通との乗継を考慮し、利便性を向上させることで明智線の利用促進を図るとともに、上限運賃制度の導入について検討を進めます。								
査定							次年度方向性	拡大して実施		

3. 達成度評価

達成度	B	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

（1）項目別評価				（2）個人総合評価		
達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価		評価		
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価		意見・コメント		
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点が必要であったか評価する。	評価				
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価				

【二次評価基準凡例表】

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強く求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

（2）個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

（3）委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

令和 7 年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	こども家庭課	担当課長名	藤本 敏子
-----	--------	-------	-------

1. 事業概要				部・局名	健康福祉部	課・所属名	こども家庭課
施策体系	大 区 分	人・未来を育むまちづくり			事業概要	指定管理制度による市内4ヶ所の児童館管理運営及び施設の維持管理を行います。平成18年度以降、社会福祉協議会を指定管理者として指定しており、現在が4期目（令和3年度～令和7年度）となります。	
	中 区 分	子育て支援					
	小 区 分	子ども子育て支援の充実					
実施事業	事 業 名	児童館管理運営経費（指定管理）			翌年度以降3年間の内容		
	事業目的	来館児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とします。					
	目標指標	年間利用者数					
	事業期間	H18～					
	総括表掲載	掲載あり					
	二次評価対象	○					
	予 算 科 目	会 計	款	項			
	001 一般会計	003 民生費	002 児童福祉費	005 児童館費	03020501	児童館管理運営経費	

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位：人）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起 債	基 金	その他	一般財源	計			
6						60,260	60,260	5	49,194.0	80,000.0
7								6	56,841.0	70,000.0
8								7	0.0	70,000.0
9								8	0.0	70,000.0
10								9	0.0	70,000.0
11								10	0.0	70,000.0
12								11	0.0	70,000.0
13								12	0.0	70,000.0
14								13	0.0	70,000.0
15								14	0.0	70,000.0
計						60,260	60,260	15	0.0	70,000.0
担当課評価	実施状況	令和3年度から令和7年度までの5年間、4館すべて瑞浪市社会福祉協議会と指定管理を締結しています。新型コロナウイルス感染症の影響により減少した利用者数が、大幅に回復しています。								
	問題課題	少子化に伴い利用者数の増加が頭打ちになると予想される中、中学生や高校生等も対象に利用者層を広げる必要があります。								
	具体的改善内容	コロナ禍後の利用者増は、各児童館の努力の成果であると考えられます。今後も、アンケート調査等を通じて利用者のニーズを把握し、地域性や施設の特徴を活かした事業を実施します。								
査定							次年度方向性	現状で継続		

3. 達成度評価

達成度	B	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

(1) 項目別評価

達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価	
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価	

【二次評価基準凡例表】

(1) 項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2) 個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

二次評価委員名	
---------	--

(2) 個人総合評価

評価		
意見・コメント		

(3) 委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

令和7年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	危機管理課	担当課長名	安部 智晴
-----	-------	-------	-------

1. 事業概要				部・局名	総務部	課・所属名	危機管理課
施策体系	大 区 分	持続可能なまちづくり			事業概要	瑞浪市防犯推進の会が実施する青色防犯パトロール活動がスムーズかつ効果的に行われるよう、パトロール車の貸出のほか、講習会の開催等を支援します。 また市民の防犯意識向上のために、警察の協力を得て防犯に関する啓発を行います。	
	中 区 分	防犯・交通安全					
	小 区 分	地域ぐるみの防犯活動の推進					
実施事業	事 業 名	防犯活動推進経費			翌年度以降3年間の内容		
	事業目的	市民、特に子どもや高齢者に対する防犯対策の強化					
	目標指標	青色回転灯防犯パトロール実施回数					
	事業期間	H20～					
	総括表掲載	掲載あり					
	二次評価対象	○					
予算科目	会 計		款	項	目	事業名	
	001 一般会計		002 総務費	001 総務管理費	011 自治振興費	02011124	防犯活動推進経費

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位：回）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起債	基金	その他	一般財源	計			
6						686	686	5	269.0	600.0
7								6	293.0	360.0
8								7	0.0	360.0
9								8	0.0	360.0
10								9	0.0	360.0
11								10	0.0	360.0
12								11	0.0	360.0
13								12	0.0	360.0
14								13	0.0	360.0
15								14	0.0	360.0
計						686	686	15	0.0	360.0
担当課評価	実施状況	瑞浪市防犯推進の会が実施する青色防犯パトロール講習会の支援及び安全にパトロールが実施できるようパトロール車両の車検・点検を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響で、実施回数が減少していましたが、終息後は徐々に増加しています。（R4:205回、R5:269回、R6:293回）								
	問題課題	パトロール従事者の高齢化が進んでおり、活動できる人員が減少しています。そのため活動（実施）が縮小・休止状態の地区もあり、パトロール実施回数の維持が困難となってきました。								
	具体的改善内容	新規のパトロール従事者（特に若い世代）を増やすため、区長会やまちづくり推進協議会にも参加してもらえるような体制づくりを提案するとともに、各地区で講習会を開催します。								
査定							次年度方向性	現状で継続		

3. 達成度評価

達成度	B	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

（1）項目別評価

達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価	
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価	

【二次評価基準凡例表】

（1）項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強く求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

（2）個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

二次評価委員名	
---------	--

（2）個人総合評価

評価		
意見・コメント		

（3）委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	